



Hewlett Packard
Enterprise

HPE OneView for VMware vRealize Log Insight v1.1 ユーザーガイド

摘要

このガイドでは、HPE OneView for VMware vRealize Log Insight をインストールおよび使用して、クラウド環境で集約、解析、および検索の各機能を使って自動ログ管理を活用するために必要な情報を提供します。

部品番号: 876879-191
発行: 2017 年 3 月
版数: 1

目次

はじめに.....	4
VMware vCenter Log Insight の概要.....	4
HPE OneView for VMware vRealize Log Insight のインストールと構成.....	5
HPE OneView for VMware vRealize Log Insight のインストール.....	5
HPE OneView for VMware vRealize Log Insight の構成.....	6
iLO Remote Syslog 設定の構成のスク립ティング.....	7
HPE OA Remote Syslog 設定の構成のスク립ティング.....	8
HPE OneView for vRealize Log Insight の使用.....	9
HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスの概要.....	9
ログイベントの検索とフィルター処理.....	9
Interactive Analytics のグラフを使用したログの分析.....	14
動的フィールド抽出.....	16
抽出したフィールドの削除.....	19
抽出したフィールドの変更.....	20
検索クエリの管理.....	20
ダッシュボードタイプ.....	22
HPE OneView for vRealize Log Insight のアラートクエリ.....	29
サポートと他のリソース.....	37
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	37
アップデートへのアクセス.....	37
Web サイト.....	37
カスタマーセルフリペア (CSR)	38
リモートサポート (HPE 通報サービス)	38
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	38

サードパーティの Web サイト

他社の Web サイトへのリンクを使用すると、Hewlett Packard Enterprise Web サイト外に移動します。Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報は Hewlett Packard Enterprise の管理対象外であり、それらの情報について責任を負いかねますのでご了承ください。

商標

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の商標です。

はじめに

VMware vCenter Log Insight の概要

HPE OneView for VMware vCenter Log Insight（HPE OneView for vCenter Log Insight と呼ばれます）には、ログの集約とインデックス作成、および検索と解析の機能が用意されています。

HPE OneView for vCenter Log Insight は、ログを収集、インポート、および分析して、システム、サービス、およびアプリケーションに関連する情報を提供します。

Log Insight 集約の詳細

ログデータから抽出されたフィールドは集約に使用できます。これは、Microsoft Excel のリレーショナルデータベースまたはピボットテーブルで GROUP-BY クエリが提供する機能に似ています。違いは、抽出、変換、およびロード（ETL）のプロセスが不要であり、HPE OneView for vCenter Log Insight は任意のサイズのデータに合わせて調整できる点です。

データの集約表示を生成して、複数のシステムまたはアプリケーションにアクセスせずに特定のイベントまたはエラーを識別できます。たとえば、システムの重要なメトリックである 1 分当たりのエラー数を表示し、特定の時間範囲のイベントをドリルダウンして、環境内で発生したエラーを調べることができます。

ランタイムフィールド抽出

生のログデータはいつも理解しやすいとは限らず、検索および集約で重要なフィールドを識別するために一部のデータを処理する必要がある場合があります。HPE OneView for vRealize Log Insight では、ランタイムフィールド抽出によってこの問題に対応します。正規表現によって、データから任意のフィールドを動的に抽出できます。抽出したフィールドは選択、予測、および集約に使用できます。これは、解析時に抽出されるフィールドの使用方法に似ています。

ダッシュボード

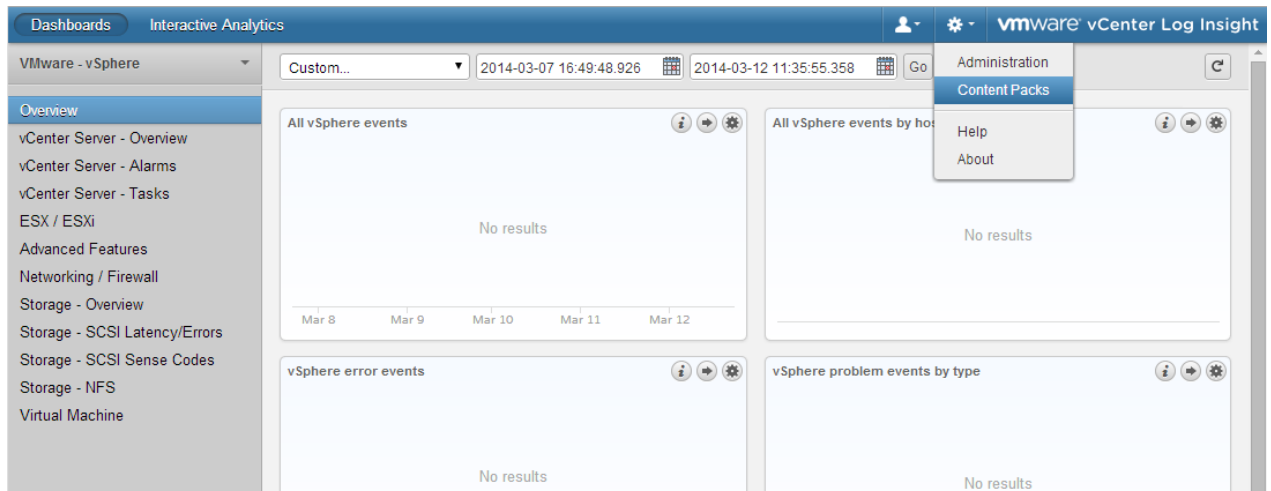
詳しく監視するための便利なメトリックのダッシュボードを作成することができます。任意のクエリをダッシュボードウィジェットにすることができ、任意の時間範囲で要約できます。直近の 5 分、1 時間、または 1 日のシステムのパフォーマンスをチェックできます。1 時間ごとのエラーの分析を表示し、ログイベントの傾向を観察できます。

HPE OneView for VMware vRealize Log Insight のインストールと構成

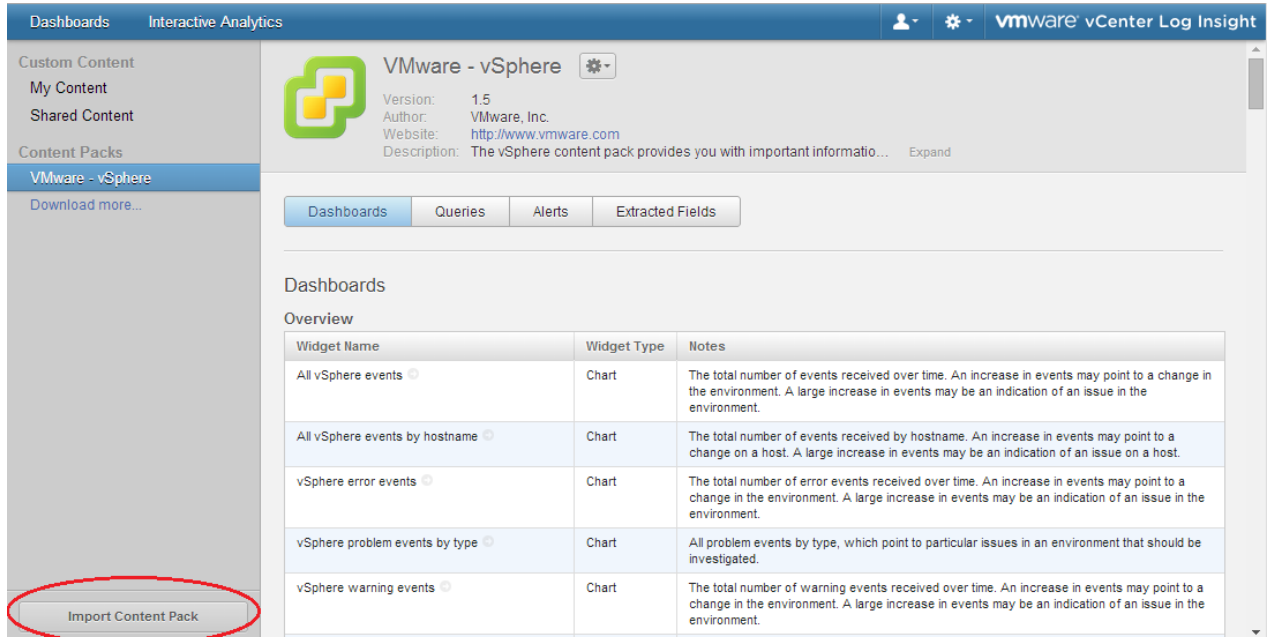
HPE OneView for VMware vRealize Log Insight のインストール 手順

手順

1. HPE OneView for VMware vRealize Log Insight Content Pack をダウンロードします。
2. vRealize Log Insight サーバーの Web インターフェイスにログインします。
3. ナビゲーションペインで、**Overview** をクリックし、**Gear** アイコンメニューから **Content Packs** を選択します。

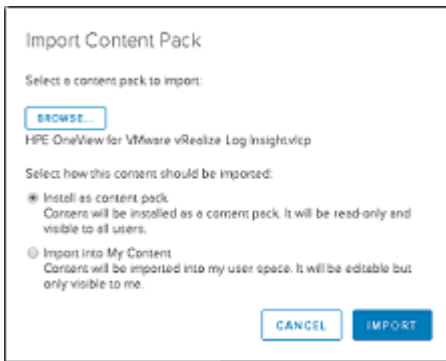


4. ナビゲーションペインの下部にある **Import Content Pack** を選択します。



Import Content Pack 画面が表示されます。

5. **Browse...**をクリックし、HPE OneView for VMware vRealize Log Insight Content Pack をダウンロードしたディレクトリに移動します。



6. HPE OneView for VMware vRealize Log Insight.vlcp を選択します。
7. **Install as content pack** を選択し、**Import** をクリックします。

バージョン 1.1 でのネームスペースの変更により、アップグレード中に古いバージョンのコンテンツパックは自動的に削除されません。インストールの前または後に、古いバージョンを手動でアンインストールしてください。

HPE OneView for VMware vRealize Log Insight の構成

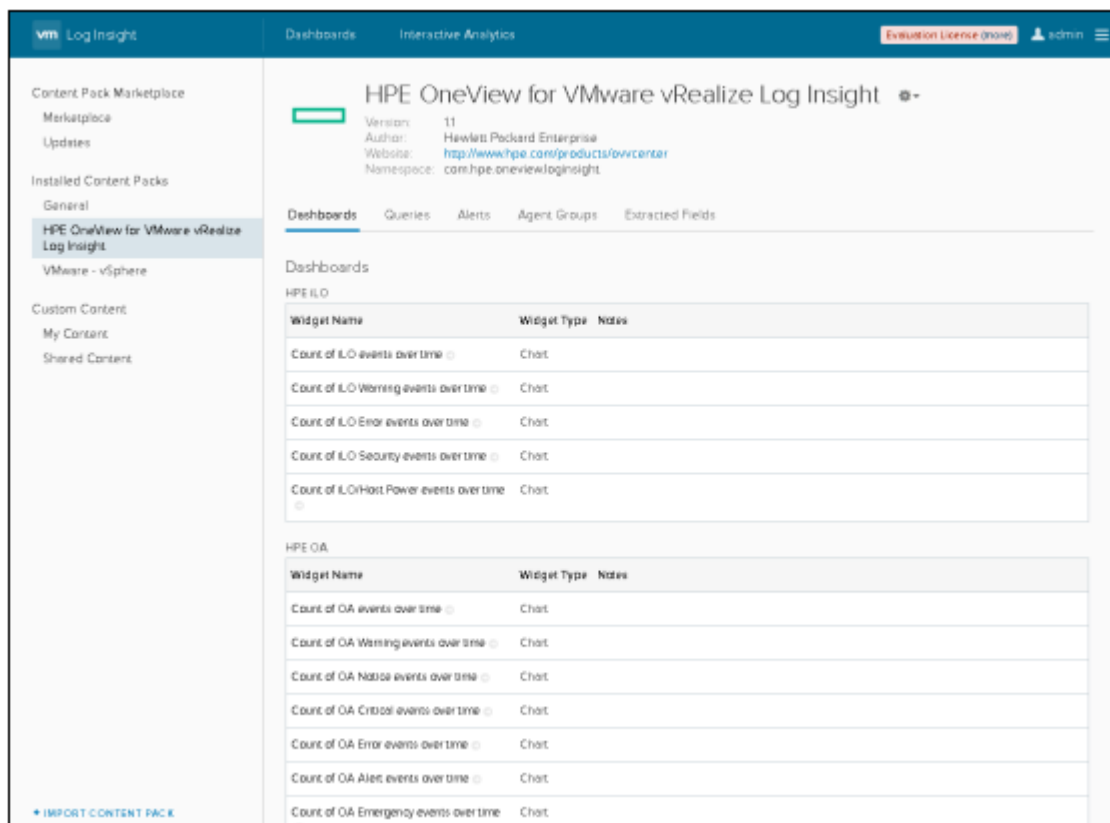
HPE OneView vRealize Log Insight を使用するには、iLO と OA の syslog 設定を構成して、vRealize Log Insight サーバーの IP アドレスをポイントする必要があります。

- iLO の構成について詳しくは、*HPE iLO ユーザーガイド*を参照してください。
- OA の構成について詳しくは、*HPE BladeSystem Onboard Administrator ユーザーガイド*を参照してください。

優先度フィールドを格納するための vRealize Log Insight の構成

VMware vRealize Log Insight バージョン 2.5 以降では、デフォルトでは受信 syslog メッセージに存在する優先度フィールドは保存されません。HPE OneView ダッシュボードはこのフィールドを活用して、イベントを深刻度別に分類します。内部構成を変更することによって、優先度フィールドを格納するように vRealize Log Insight を構成する必要があります。

内部構成の変更について詳しくは、[Log Insight の内部構成](#)を参照してください。



iLO Remote Syslog 設定の構成のスクリプティング

HPE ProLiant サーバーの iLO Remote Syslog 設定を構成する方法はいくつかあります。各オプションについて詳しくは、<http://www.hpe.com/go/ilo/docs> にある *HPE iLO スクリプティング/コマンドラインガイド* を参照してください。

以下に、いくつかのサーバーについてこの設定の構成のスクリプトを記述する 1 つの方法の例を示します。

手順

1. HPE Lights-Out 設定ユーティリティをダウンロードおよびインストールします。
2. Remote Syslog 設定を構成するコマンドを含む `syslog.xml` という名前の XML テキストファイルを作成します。Remote Syslog サーバーアドレス値を Log Insight サーバーのアドレスに置き換えます。

ログインユーザーの名前とパスワードをコマンドラインオプションを使って上書きし、同じファイルを使用して複数のサーバーを構成できます。次に、`syslog.xml` ファイルの例を示します。

```
<RIBCL VERSION="2.0">
<LOGIN USER_LOGIN="myusername" PASSWORD="mypassword">
<RIB_INFO MODE="write">
<MOD_GLOBAL_SETTINGS>
<REMOTE_SYSLOG_ENABLE VALUE="Yes"/>
<REMOTE_SYSLOG_PORT VALUE="514"/>
<REMOTE_SYSLOG_SERVER_ADDRESS VALUE="10.0.0.1"/>
</MOD_GLOBAL_SETTINGS>
</RIB_INFO>
```

```
</LOGIN>  
</RIBCL>
```

3. HPE ProLiant サーバーごとにバッチファイルを作成して実行します。サーバーのアドレスをサーバーの iLO IP または iLO ホスト名に置き換えます。ユーザー名とパスワードをそのサーバーの iLO ユーザー名とパスワードに置き換えます。

次に、実行可能なバッチファイルの例を示します。

```
HPQLOCFG.exe -s 10.0.1.1 -u myusername -p mypassword -f syslog.xml
```

HPE OA Remote Syslog 設定の構成のスク립ティング

HPE OA Remote Syslog 設定は、OA ssh インターフェイスによってリモートから構成することができます。以下に、これを行う 1 つの方法の例を示します。

手順

1. PuTTY をダウンロードおよびインストールします。
2. Remote Syslog 設定を構成するコマンドを含む `syslog.cmd` という名前のテキストファイルを作成します。

リモート syslog サーバー値は、Log Insight サーバーの IP アドレスにしてください。次に、`syslog.cmd` ファイルの例を示します。

```
set remote syslog port 514  
set remote syslog server 10.0.0.1  
enable syslog remote
```

3. HPE c-Class エンクロージャーごとに、以下のコマンドを含むバッチファイルを作成して実行します。
IP アドレスは、エンクロージャーのプライマリ OA の IP にしてください。ユーザー名とパスワードは、OA のユーザー名とパスワードにしてください。次に、実行可能なバッチファイルの例を示します。

```
putty -ssh -m syslog.cmd myusername@10.0.2.1 -pw mypassword
```


HPE OneView for vRealize Log Insight の使用

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスの概要

利用可能な機能は、Log Insight Web ユーザーインターフェイスへのログインに使用するユーザーアカウントによって異なります。

Dashboards タブ

Dashboards タブには、カスタムのダッシュボードおよびコンテンツパックのダッシュボードが含まれています。Dashboards タブで、環境内のログイベントのグラフを表示したり、ウィジェットのカスタムセットを作成して最も重要な情報にアクセスしたりできます。

注記:

iLO ダッシュボードは、iLO ログイベントに基づく iLO のみレポートします。その他のログイベントは含まれません。

Interactive Analytics タブ

Interactive Analytics タブで、ログイベントを検索およびフィルター処理したり、ログイベントのタイムスタンプ、テキスト、ソース、およびフィールドに基づいてイベントを抽出するクエリを作成したりできます。HPE OneView for vRealize Log Insight は、クエリ結果のグラフを提供します。これらのグラフを保存して、後で Dashboards タブで検索することができます。

コンテンツパック

コンテンツパックには、ダッシュボード、抽出したフィールド、保存したクエリ、および特定の製品またはログセットに関連したアラートが含まれます。コンテンツパックには、HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスの右上にあるドロップダウンメニューからアクセスします。コンテンツパックをインポートまたは作成できるのは、HPE OneView for vRealize Log Insight ユーザーです。

管理ユーザーインターフェイス（管理 UI）

Log Insight 管理者は、ユーザーアカウントの管理、ストレージの場所とアーカイブ作成の構成、メール通知用の送信 SMTP サーバーの構成、およびその他のいくつかのパラメーターの変更ができます。

ログイベントの検索とフィルター処理

ログイベントは、Interactive Analytics タブで検索およびフィルター処理できます。

完全なキーワード、グロブ、またはフレーズを検索テキストボックスに入力して Search をクリックすると、指定したキーワードを含むイベントのみを検索できます。Web ユーザーインターフェイスの Dashboards または Interactive Analytics ページでは、時間範囲を指定できます。フィルター処理時の時間範囲は包括的なものです。

特定のフィールドの特定の値に一致するログイベントを検索できます。メイン検索フィールドで引用符で囲んだテキストを使用すると、厳密に一致するフレーズが検索されます。メイン検索フィールドにスペースを入力すると、論理演算子 AND になります。検索では、フルトークンのみを使用します。「err」を検索しても、「error」は一致候補として検索されません。ドロップダウンメニューと、ログイベントのリストの上にあるテキストボックスを使用して、フィールド検索条件、つまり制約を指定できます。

1 行の制約内で、カンマ区切りの値を使用して OR 制約を一覧表示できます。たとえば、hostname contains を選択して、「127.0.0.1, 127.0.0.2」と入力したとします。この検索では、ホスト名が 127.0.0.1 または 127.0.0.2 のイベントが返されます。

注記:

text contains 制約は、カンマ区切りの各値を完全なキーワードとして扱います。

各フィールドに新しい制約行を作成することにより、複数のフィールド制約を組み合わせることができます。複数行の制約に適用される演算子を切り替えることができます。

- all を選択すると、AND 演算子が適用されます。
- any を選択すると、OR 演算子が適用されます。

注記:

切り替えの値に関係なく、単一の制約行内のカンマ区切り値の演算子は常に OR です。

検索条件でグロブを使用できます。例：vm*または vmw?re

- 0 個以上の文字の場合は*を使用します。
- 1 個の文字の場合は?を使用します。

注記:

グロブを検索条件の最初の文字として使用することはできません。たとえば、フィルター処理クエリで、192.168.0.*は使用できますが、*.168.0.0 は使用できません。

ログイベント内の情報

vRealize Log Insight 内のログは、syslog を使用して取り込むことができます。各イベントには、次の情報が含まれます。

タイプ	説明
Timestamp	イベントの発生時刻。
Source	イベントの発生元。これは、ESXi ホストなどの syslog メッセージの発生元のこと Alternatively、syslog アグリゲーターなどの転送プログラムのこともあります。
Text	イベントの raw テキスト。
Fields	イベントから抽出された名前/値ペア。

時間範囲に基づいてログイベントをフィルター処理する

始める前に

vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

ログイベントをフィルター処理して、特定の期間のイベントだけを表示できます。Web ユーザーインターフェイスの Dashboards または Interactive Analytics ページでは、時間範囲を指定できます。フィルター処理時の時間範囲は包括的なものです。

手順

1. 右側の **Time Range** ドロップダウンメニューから、事前に定義された期間の 1 つを選択します。
2. (オプション) 時間範囲の開始点と終了点を設定するには、**Custom** を選択します。

完全なキーワードを含むログイベントを検索する

始める前に

vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

完全なキーワードを含むログイベントを検索することができます。キーワードには、英数字、ハイフン、およびアンダースコアの各文字が含まれます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. 検索テキストボックスに、ログイベントで検索する完全なキーワードを入力し、**Search** をクリックします。

指定した完全なキーワードを含むログイベントがリストに表示されます。検索した文字列が黄色く強調表示されます。

現在のクエリを保存して、後の段階でロードすることができます。

フィールドの演算に基づいてログイベントを検索する

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

既存のフィールドのリストを使用して、フィールドに特定の値があるログイベントを検索できます。

注記:

vRealize Log Insight は、英数字、ハイフン、およびアンダースコアの完全な文字のインデックスを作成します。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. **Add Constraint** をクリックします。
3. 検索テキストボックスの下にある制約行で、最初のドロップダウンメニューを使用して、HPE OneView for vRealize Log Insight 内で定義されている任意のフィールドを選択します。例: `hostname`。

リストには、コンテンツパックおよびカスタムコンテンツで静的に使用可能な定義済みのすべてのフィールドが含まれます。フィールドは、テキストフィールドを除いて名前に基づいてソートされます。テキストはメッセージテキストを参照する特殊なフィールドなので、リストの一番上にテキストが表示され、デフォルトで選択されています。

注記:

数値フィールドには、文字列フィールドには含まれない追加の演算子の=、>、<、>=、<=が含まれます。これらの演算子は、数値の比較を実行します。これらの演算子を使用すると、文字列の演算子を使用したときとは異なる結果が出ます。たとえば、制約 **response_time = 02** は、値が2の **response_time** フィールドを含むイベントと一致します。制約 **response_time contains 02** の一致とは同じになりません。

4. 検索テキストボックスの下にある制約行で、2番目のドロップダウンメニューを使用して、最初のドロップダウンメニューで選択したフィールドに適用される演算を選択します。たとえば、**contains** を選択します。**contains** 制約はフルトークンと一致します。err を検索しても、「error」は一致候補として検索されません。
5. 制約のドロップダウンメニューの右側にあるテキストボックスに、フィルターとして使用する値を入力します。複数の値をカンマで区切ってリストできます。これらの値の間の演算子は OR です。
6. (オプション) さらに制約を追加するには、**Add Constraint** をクリックします。制約の行の上に切り替えボタンが表示されます。
7. (オプション) 制約が複数行の場合は、制約間の演算子を選択します。

あるイベントの前、後、または近くで発生したイベントを検索する

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

ログイベントのリストで、そのリスト内のあるイベントの前、後、および近くで発生したイベントを検索することができます。あるイベントの前および後の環境のステータスの詳細を知りたい場合は、周囲のイベントをチェックできます。

手順

1. Interactive Analytics タブで、リスト内のイベントを見つけます。
2. イベントの行の右の部分で、**Set time range from this event** アイコンをクリックします。
3. Set Time Range From Event ダイアログボックスで、ドロップダウンメニューを使用して、時間範囲の期間と方向を選択します。事前に定義された1秒~10分の期間のリストから選択できます。
4. **Set Range** をクリックします。選択したイベントの前後のイベントがリストに表示されます。

この演算により、以前に指定したすべての検索パラメーターおよび制約がクリアされます。

すべてのフィルター処理ルールをクリアする

始める前に

HPE OneView for Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

すべてのフィルター処理と検索結果をクリアして、すべてのログイベントのリストを表示することができます。イベントリストで検索を実行した後、検索結果は、すべてのクエリをクリアするまで画面上に残ります。

手順

1. Interactive Analytics タブで、すべての制約をクリアします。
2. 検索テキストボックスにテキストが表示される場合は、そのテキストを削除します。
3. **Search** をクリックします。

検索クエリの例

これらの例は、HPE OneView for vRealize Log Insight の **Interactive Analytics** タブでクエリを構築するとき
に使用できます。

例：昨日の午前 9～10 時の ESX/ESXi hostd プロセスによって報告されたすべてのハートビート イベントについてのクエリ

HPE OneView for vRealize Log Insight は、英数字、ハイフン、およびアンダースコアの完全な文字のインデ
ックスを作成します。

ESX/ESXi hostd プロセスによって報告されたすべてのハートビートイベントについてのクエリを実行するに
は、以下の手順に従います。

手順

1. 検索テキストボックスに、「heartbeat*」と入力します。
2. 制約を定義します。
 - 最初のドロップダウンメニューから **appname** を選択します。
 - 2 番目のドロップダウンメニューから **contains** を選択します。
 - 値のテキストボックスに「hostd」と入力します。
3. 時間範囲を定義します。
 - a. Time Range ドロップダウンメニューで、**Custom** を選択します。
 - b. 最初のテキストボックスに、昨日の日付と午前 9 時の時間を入力します。
 - c. 2 番目のテキストボックスに、昨日の日付と午前 10 時の時間を入力します。
4. **Search** をクリックします。

例：名前に共通の文字列が含まれるホストのグループを検索する

w1-stvc-205-prod3 という名前のホストと、w1-stvc-206-prod5 と呼ばれる別のホストを含む複数のホストがあ
るものとします。

両方のホストのすべてのログを検索するには、次のクエリを作成します。

手順

1. 検索テキストボックスは空のままにします。
2. 制約を定義します。
 - フィールドのドロップダウンメニューから **hostname** を選択します。
 - 演算子のドロップダウンメニューから **starts with** を選択します。
 - 値のテキストボックスに「w1-stvc」と入力します。

注記:

または、contains 演算子を使用することができますが、その場合は検索の値でグロブを使用する
必要があります。この例では、値のテキストボックスに「w1-stvc-*」と入力する必要があります。

-
3. **Search** をクリックします。

例：vRealize Server のタスク、イベント、およびアラームによって報告されたすべてのエラーに についてのクエリ

vRealize Server のタスク、イベント、およびアラームによって報告されたすべてのエラーについてのクエリ
を実行するには、以下の手順に従います。

手順

1. 検索テキストボックスに、「error」と入力します。
2. 制約を定義します。
 - 最初のドロップダウンメニューから **vc_event_type** を選択します。
 - 2番目のドロップダウンメニューから **exists** 演算子を選択します。
3. **Search** をクリックします。

例：ESX/ESXi によって報告される 1 秒を超える SCSI レイテンシについてのクエリ

ESX/ESXi によって報告される 1 秒を超える SCSI レイテンシについてのクエリを実行するには、以下の手順に従います。

手順

1. 検索テキストボックスに、「scsi latency "performance has"」と入力します。
2. 制約を定義します。
 - 最初のドロップダウンメニューから **vmw_vob_component** を選択します。
 - 2番目のドロップダウンメニューから **contains** 演算子を選択します。
 - テキストボックスに「scsiCorrelator」と入力します。
3. 2つ目の制約を定義します。
 - 最初のドロップダウンメニューから **vmw_latency_in_micros** を選択します。
 - 2番目のドロップダウンメニューから **>** 演算子を選択します。
 - テキストボックスに「1000000」と入力します。
4. **Search** をクリックします。

Interactive Analytics のグラフを使用したログの分析

Interactive Analytics タブの上部にあるグラフを使用すると、クエリの結果を視覚的に解析することができます。グラフは、ログ検索クエリのグラフィックスナップショットを表します。グラフの下にあるドロップダウンメニューを使用して、グラフのタイプを変更できます。左側の最初のドロップダウンメニューを使用して、グラフの集約レベルを制御できます。Count 関数はデフォルトで選択されています。

HPЕ OneView for vRealize Log Insight には、いくつかの集約関数が用意されています。

タイプ	フィールド	説明
Count	イベントのみ	特定のクエリのイベント数のグラフを作成します。
Unique count	任意のフィールド	フィールドの一意の値の数のグラフを作成します。
Minimum	数値フィールドのみ	フィールドの最小値のグラフを作成します。
Maximum	数値フィールドのみ	フィールドの最大値のグラフを作成します。
Average	数値フィールドのみ	フィールドの平均値のグラフを作成します。

表は続く

タイプ	フィールド	説明
Std dev	数値フィールドのみ	フィールドの値の標準偏差のグラフを作成します。
Sum	数値フィールドのみ	フィールドの値の合計のグラフを作成します。
Variance	数値フィールドのみ	フィールドの値の分散のグラフを作成します。

グラフの下にある 2 番目のドロップダウンメニューを使用して、時系列ではなく、または時系列に加えて、特定のフィールド値に基づいてクエリ結果を集計できます。ホストあたりのイベント数など、フィールドのイベント数を表示するには、Time series チェックボックスを選択解除してそのフィールドのチェックボックスを選択します。時間とともに集計フィールドの積み上げ棒グラフを表示するには、Time series チェックボックスとフィールドのチェックボックスの両方を選択します。

ログのグラフの操作

Interactive Analytics タブのグラフの外観を変更したり、カスタムのダッシュボードにグラフを追加したり、ダッシュボードのグラフを管理したりできます。

タスク	手順
グラフの時間範囲を変更する	Interactive Analytics タブで、Time Range ドロップダウンメニューを使用して、グラフに表示される期間を切り替えます。
グラフの最小単位を変更する	Interactive Analytics タブで、右上にあるボタンを使用して、グラフに示されている各点のさまざまな時間範囲を切り替えます。使用可能な範囲は、クエリに指定された時間範囲によって異なります。
Interactive Analytics タブでダッシュボードのグラフをロードする	Dashboards タブで、グラフを見つけて Open in Interactive Analytics アイコンをクリックします。時間範囲は、ダッシュボードの現在の時間範囲に設定されます。時間範囲は、必要に応じて変更できます。
グラフをカスタムダッシュボードに保存する	<ul style="list-style-type: none"> • Interactive Analytics タブの左上で、Add to Dashboard をクリックします。または、Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、Add Current Query to Dashboard を選択します。 • 名前を入力し、ドロップダウンメニューから保存先のダッシュボードを選択して、ウィジェットに関する情報を追加し、Add をクリックします。

表は続く

タスク	手順
クエリをグラフとしてカスタムダッシュボードに保存する	<ul style="list-style-type: none"> • Search ボタンの横にあるドロップダウンメニューを選択します。 • Add Current Query to Dashboard を選択します。 • 名前を入力し、ドロップダウンメニューから保存先のダッシュボードを選択して、ウィジェットのタイプが Chart に設定されていることを確認し、ウィジェットに関する情報を追加して、Add をクリックします。
カスタムダッシュボードからグラフを削除する	<ul style="list-style-type: none"> • Dashboards タブで、削除するグラフを含むカスタムダッシュボードを選択します。 • グラフウィジェットの右上隅で、Other Actions アイコンをクリックして、Delete を選択します。 • Delete Widget ダイアログボックスで、Delete をクリックして確認します。

Interactive Analytics のグラフのタイプを変更する

始める前に

HPЕ OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPЕ OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

グラフに表示されるクエリ結果の集約および集計を変更して、ログイベントをグラフィカルに分析することができます。グラフの下に表示されるドロップダウンメニューの数は、選択した集約関数によって異なります。

手順

1. Interactive Analytics のグラフの下にあるドロップダウンメニューを使用して、集約関数と集計タイプを変更します。
 - 時間の経過に伴うイベントの数を表示するには、**Time series** チェックボックスを選択します。
 - イベントの値のみを表示するには、**Time series** チェックボックスを選択解除し、少なくとも1つのフィールドを選択します。
2. **Update** をクリックします。

動的フィールド抽出

多数のログイベントがある大規模な環境では、重要なデータフィールドをいつでも見つけられるとは限りません。HPЕ OneView for vRealize Log Insight では、ランタイムフィールド抽出によってこの問題に対応します。正規表現によって、データから任意のフィールドを動的に抽出できます。

注記:

汎用のクエリは、速度が非常に遅いことがあります。たとえば、`\(d +)`式を使用してフィールドを抽出しようとする、クエリは括弧内に数字を含むすべてのログイベントを返します。クエリにできるだけ多くのテキストのコンテキストが含まれていることを確認してください。たとえば、`vm\(d+)`の場合、より良いフィールド抽出クエリは `Event` です。

抽出したフィールドを使用して、ログイベントのリストを検索およびフィルター処理したり、Interactive Analytics のグラフでイベントを集約したりできます。

ワンクリック抽出を使用したフィールドの抽出

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。 `log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

フィールドを動的に抽出するためにコンテキストの値を入力する代わりに、ワンクリックの抽出機能を使用することができます。ワンクリックの抽出では、ログイベントで選択するフィールドに対応するコンテキストのすべての値が生成されます。

注記:

ワンクリックの抽出オプションは、通常表示でのみ利用可能です。Raw 表示でこのオプションを使用することはできません。 **Interactive Analytics** タブで、ログイベントのリストの上にある **View** ドロップダウンメニューを使用して、表示を切り替えます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. ログイベントのリストで、抽出するフィールドを表すテキストを強調表示します。
そのイベントに存在するフィールド名のセットの横に Extract Field ボタンが表示されます。
3. **Extract Field** をクリックします。Fields ペインのコンテキストの値は、強調表示したフィールドの抽出に必要なコンテキストを使って自動的に生成されます。
4. (オプション) Fields ペインで、Value 正規表現を変更します。
5. (オプション) Fields ペインで、Context 正規表現を変更します。
6. 管理者ユーザーの場合は、フィールドにアクセスできるユーザーを選択します。

オプション	説明
All users	検索ドロップダウンメニューのフィールドはすべてのユーザーに表示されます。
Me only	検索ドロップダウンメニューのフィールドはほかのユーザーには表示されません。

7. **Save** をクリックします。

抽出したフィールドを使用して、ログイベントのリストを検索およびフィルター処理したり、Interactive Analytics のグラフでイベントを集約したりできます。保存したフィールド定義は変更することができ、不要になった場合は削除できます。

ログイベントからのフィールドの抽出

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。 `log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

ログイベントからフィールドを抽出し、それらのフィールドを使用してログイベントの検索、フィルター処理、および集約ができます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. Fields ペインで、**Extract Field** をクリックします。

- 抽出したフィールドの変更可能なパラメーターを表示する新しいウィジェットで、ドロップダウンメニューから値のタイプを選択します。ドロップダウンメニューの下にあるテキストボックスに、抽出するフィールドの値と一致するカスタムの正規表現を入力できます。
- 抽出する値の前または後にコンテキストを指定します。コンテキストは、指定されたプレフィックスおよびサフィックスの値と一致しない値を除外するので、一致の誤りを排除するのに役立ちます。コンテキストの値は、プレーンテキストまたは正規表現として指定できます。
- (オプション) 抽出したフィールドの名前を入力します。名前を指定しない場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、抽出したフィールドの名前として field1 を割り当てます。
- 管理者ユーザーの場合は、フィールドにアクセスできるユーザーを選択します。

オプション	説明
All users	検索ドロップダウンメニューのフィールドはすべてのユーザーに表示されます。
Me only	検索ドロップダウンメニューのフィールドはほかのユーザーには表示されません。

- Save** をクリックします。

抽出したフィールドを使用して、ログイベントのリストを検索およびフィルター処理したり、Interactive Analytics のグラフでイベントを集約したりできます。保存したフィールド定義は変更することができ、不要になった場合は削除できます。

フィールド抽出のクエリ例

これらのクエリは、vSphere 環境から発生したログイベントで実行できます。

注記:

抽出したフィールドを使用して、ログイベントのリストを検索およびフィルター処理したり、Interactive Analytics のグラフでイベントを集約したりできます。保存したフィールド定義は変更することができ、不要になった場合は削除できます。

抽出するフィールド	値のタイプ	値	値の前のコンテキスト	前のコンテキスト
演算の実行に要する時間	整数値	-?\d+	took	ms
HTTP バージョン	小数	-?\d*\.\d+	HTTP/	

正規表現の例

フィールドの値のテキストボックスに正規表現を入力して、ログイベントからフィールドを抽出することができます。

正規表現	説明
[xyz]	x、y、または z
(info warn error)	情報、警告、またはエラー
[a-z]	1 つの小文字

表は続く

正規表現	説明
[^a-z]	小文字でない1つの文字
[a-z]+	1つ以上の小文字
[a-z]*	ゼロ個以上の小文字
[a-z]?	ゼロ個または1つの小文字
[a-z]{3}	正確に3つの小文字
[\d]	1つの数字
\d+\$	1つ以上の数字とそれに続く後にメッセージの末尾
[0-5]	0~5の1つの数字
\w	ワード構成文字（英字、数字、またはアンダースコア）
\s	空白
\S	空白以外の文字
[a-zA-Z0-9]+	1つ以上の英数字
([a-z]{2,}[0-9]{3,5})	2つ以上の英字とそれに続く3~5桁の数字

抽出したフィールドの削除

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

抽出したフィールドが必要なくなった場合は削除することができます。HPE OneView for vRealize Log Insight では、ウィジェット、クエリ、またはアラートを作成するときに使用するフィールドのコピーを作成します。ウィジェット、クエリ、またはアラートで使用されているフィールドを削除した場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、そのフィールドを使用する各ウィジェット、クエリ、またはアラートに対して削除済みフィールドの一時コピーを作成します。

変更できるのは、名前の横に **Edit this field** アイコンがあるフィールドだけです。通常のユーザーが変更できるのは自分のコンテンツだけです。管理者ユーザーは、自分のコンテンツと共有コンテンツを変更できます。コンテンツパックのフィールドは読み取り専用です。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. 右側にあるフィールドのリストで、削除したいフィールドを選択し、**Edit this field** アイコンをクリックします。フィールドのプロパティが表示されます。リストにフィールドが表示されない場合は、**Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューを選択し、**Manage Extracted Fields** を選択します。削除するフィールドの名前の上にカーソルを重ねて、赤色の **X** をクリックします。

3. **Delete** をクリックします。削除したいフィールドを使用するコンテンツのリストがダイアログボックスに表示されます。ユーザーが管理者ユーザーであり、フィールドが複数のユーザーによって共有されている場合は、影響を受けるユーザーのリストもダイアログボックスに表示されます。
4. **Delete** をクリックして確認します。

削除したフィールドが既存のクエリで使用されている場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、フィールドの一時コピーを作成して、削除したフィールドを使用するクエリをロードするときそのコピーを表示します。一時フィールドが含まれるコンテンツをエクスポートする場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、エクスポートするコンテンツパックにフィールドを作成して一時フィールドを回避します。

抽出したフィールドの変更

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

抽出したフィールドの定義を変更することができます。HPE OneView for vRealize Log Insight では、グラフ、クエリ、またはアラートを作成するときに使用するフィールドのコピーを作成します。フィールドの定義を変更した場合は、変更したフィールドを使用するすべてのグラフ、クエリ、およびアラートがアップデートされて、新しい定義が反映されます。

変更できるのは、名前の横に **Edit this field** アイコンがあるフィールドだけです。通常のユーザーが変更できるのは自分のコンテンツだけです。管理者ユーザーは、自分のコンテンツと共有コンテンツを変更できます。コンテンツパックのフィールドは読み取り専用です。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. 右側にあるフィールドのリストで、変更したいフィールドを選択し、**Edit this field** アイコンをクリックします。リストにフィールドが表示されない場合は、Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューを選択し、**Manage Extracted Fields** を選択します。編集するフィールドの名前をクリックします。
3. 値を変更し、**Update** をクリックします。アップデートしたフィールドの影響を受けるコンテンツのリストがダイアログボックスに表示されます。フィールドが複数のユーザー間で共有されている場合は、影響を受けるユーザーのリストもダイアログボックスに表示されます。
4. **Update** をクリックして変更を確認します。HPE OneView for vRealize Log Insight は、変更されたフィールドを使用するすべてのクエリ、アラート、およびグラフをアップデートします。

検索クエリの管理

クエリ結果をエクスポートしたり、クエリをほかのユーザーと共有したり、既存のクエリを保存、削除、名前変更、ロードしたりできます。

HPE OneView for vRealize Log Insight でのクエリの保存

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

HPE OneView for vRealize Log Insight で現在のクエリと時間範囲を保存し、後で表示することができます。保存したクエリは、Interactive Analytics ページからのみロードできます。

クエリが My Saved Queries リストに追加されます。管理者を含むすべてのユーザーには、保存したクエリの個別リストがあります。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、保存したいクエリを実行します。
2. **Search** ボタンの横にあるドロップダウンメニューから、**Save Current Query** を選択します。
3. 名前を入力し、**Save** をクリックします。

保存したクエリには固定した時間範囲が含まれており、アップデートされません。クエリを保存することで、保存を行うときに、時間範囲内で使用可能なログメッセージのスナップショットを取得します。

HPE OneView for vRealize Log Insight でのクエリの名前変更

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

HPE OneView for vRealize Log Insight で保存したクエリの名前を変更することができます。

クエリが My Saved Queries リストに追加されます。管理者を含むすべてのユーザーには、保存したクエリの個別リストがあります。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. **Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Load Query** を選択します。
3. 名前を変更したいクエリをポイントし、**Edit this saved query** アイコンをクリックします。
4. 新しい名前を入力し、**Save** をクリックします。

HPE OneView for vRealize Log Insight でのクエリのロード

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

コンテンツパックのクエリ、または **Interactive Analytics** タブで表示するために保存したクエリをロードすることができます。保存したクエリは、ダッシュボードの項目とは別です。保存したクエリは、カスタムのダッシュボードには表示されません。保存したクエリを表示する場合は、ロードする必要があります。管理者を含むすべてのユーザーには、保存したクエリの個別リストがあります。

ダッシュボードにクエリを追加したり、グラフの最小単位を変更したり、追加のフィルター処理をクエリ結果に適用したりできます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. **Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Load Query** を選択します。
3. Saved Queries リストで、**Interactive Analytics** タブで表示するクエリをクリックします。クエリは、Interactive Analytics タブでロードされます。クエリの時間範囲がイベントのリストの上に表示されます。
4. 新しい名前を入力し、**Save** をクリックします。

現在のクエリの共有

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

現在のクエリのリンクを仲間に送信することができます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、共有したいクエリを実行します。
2. **Search** ボタンの横にあるドロップダウンメニューから、**Share Current Query** を選択します。HPE OneView for vRealize Log Insight にクエリの URL が表示されます。
3. URL をコピーして、共有したい人に送信します。

現在のクエリのエクスポート

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

ログクエリの結果をエクスポートしてほかのシステムと共有したり、サポート担当者に転送したりできます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、エクスポートしたいクエリを実行します。
2. **Search** ボタンの横にあるドロップダウンメニューから、**Export Query Results** を選択します。
3. クエリを保存する形式と場所を選択し、**Save** をクリックします。

オプション	説明
Raw Events	これを選択すると、結果が TXT 形式で保存されます
JSON	これを選択すると、結果が JSON 形式で保存されます
XML	これを選択すると、結果が XML 形式で保存されます

ダッシュボードタイプ

HPE OneView for vRealize Log Insight のダッシュボードは、グラフとクエリリストウィジェットの集合です。

コンテンツパックのダッシュボード

コンテンツパックのダッシュボードはコンテンツパックとともにインポートされ、HPE OneView for vRealize Log Insight インスタンスのすべてのユーザーに表示されます。

注記:

コンテンツパックのダッシュボードは読み取り専用です。削除または名前の変更はできません。ただし、カスタムダッシュボードにコンテンツパックのダッシュボードのクローンを作成することはできません。ダッシュボード全体または個々のウィジェットのクローンを作成できます。

HPE OneView for vRealize Log Insight のインスタンスで使用できるダッシュボードを表示するには、HPE OneView for vRealize Log Insight ユーザーインターフェイスの左上隅にある Dashboards をクリックします。左上にあるドロップダウンメニューを使用して、ダッシュボードのカテゴリを切り替えることができます。ダッシュボードの内容を表示するには、左側のリストのダッシュボード名をクリックします。

カスタムコンテンツ

Custom Content カテゴリには、ダッシュボード、抽出したフィールド、および HPE OneView for vRealize Log Insight の現在のインスタンスで作成したクエリが含まれます。My Content セクションには、現在ログインしているユーザーのカスタムコンテンツが含まれます。Shared Content セクションには、HPE OneView for

vRealize Log Insight のすべてのユーザー間で共有されるコンテンツが含まれます。管理者ユーザーだけがほかのユーザーとコンテンツを共有できます。管理者ユーザーだけが共有コンテンツを管理できます。

注記:


Custom Content セクションからコンテンツをアンインストールすることはできません。保存した情報を Custom Content セクションから削除する場合は、ダッシュボード、クエリ、アラート、フィールドなどの個々の要素を削除する必要があります。

ダッシュボード管理


ダッシュボードは、カスタムダッシュボードのスペースで追加、変更、および削除できます。コンテンツパックのダッシュボードは変更できませんが、カスタムダッシュボードのスペースにそれらのダッシュボードのクローンを作成してそのクローンを変更できます。

注記:

HPE OneView for vRealize Log Insight は、保存またはクローンを作成したダッシュボード、クエリ、およびアラートの重複名のチェックは実行しません。表示名は、HPE OneView for vRealize Log Insight でクエリを保存するときの一意の識別子ではありません。このため、同じ名前を持つ複数のグラフ、アラート、およびダッシュボードを保存できます。データの取得を容易にするため、グラフ、アラート、またはダッシュボードを保存するときは名前が重複しないようにしてください。

タスク	手順
新しいカスタムダッシュボードを作成する	Dashboards タブで、 My Dashboards を選択し、左下から New Dashboard をクリックします。
カスタムダッシュボードの名前を編集する	Dashboards タブで、ダッシュボード名の上にカーソルを重ねて、メニューアイコン  をクリックし、 Edit Dashboard Name を選択します。新しい名前を入力し、 Save を選択します。
カスタムダッシュボードを削除する	Dashboards タブで、ダッシュボード名の上にカーソルを重ねて、メニューアイコン  をクリックし、 Delete Dashboard を選択します。確認ダイアログボックスで、 Delete を選択します。
カスタムダッシュボードにコンテンツパックのダッシュボードのクローンを作成する	<ul style="list-style-type: none">• Dashboards タブで、コンテンツパックを選択し、クローンを作成するダッシュボードの上にカーソルを重ねます。• メニューアイコン  をクリックし、ドロップダウンメニューから Clone Dashboard を選択します。• 名前を入力し、Save をクリックします。管理者ユーザーの場合は、ダッシュボードをほかのユーザーと共有するかどうかを選択できます。

表は続く

タスク	手順
グラフウィジェットをダッシュボードに追加する	<ul style="list-style-type: none"> • Interactive Analytics タブの左上で、Add to Dashboard をクリックします。または、Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、Add Current Query to Dashboard を選択します。 • 名前を入力し、ドロップダウンメニューから保存先のダッシュボードを選択して、ウィジェットに関する情報を追加し、Add をクリックします。
クエリリストウィジェットをダッシュボードに追加する	<u>ダッシュボードへのクエリリストウィジェットの追加</u> を参照してください。
ダッシュボードのクエリリストウィジェットにクエリを追加する	<u>ダッシュボードへのクエリリストウィジェットの追加</u> を参照してください。
ダッシュボードからウィジェットを削除する	<ul style="list-style-type: none"> • Dashboards タブで、削除するウィジェットを含むカスタムダッシュボードを選択します。 • ウィジェットの右上隅で、Other Actions アイコン  をクリックして、Delete を選択します。 • Delete Widget ダイアログボックスで、Delete をクリックして確認します。

ダッシュボードへのクエリリストウィジェットの追加

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

検索クエリのリストをカスタムダッシュボードに保存するには、クエリリストウィジェットを作成します。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、ダッシュボードに追加したいクエリを実行します。
2. **Search** ボタンの横にあるドロップダウンメニューから、**Add Current Query to Dashboard** を選択します。
3. **Dashboard** ドロップダウンメニューから、クエリを追加するダッシュボードを選択します。
4. **Widget Type** ドロップダウンメニューから、**Query List** を選択します。
5. **Query List** ドロップダウンメニューから、**New Query List** を選択し、リストの名前を入力して、**Save** をクリックします。
6. **Add** をクリックします。指定したダッシュボードにクエリリストウィジェットが表示されます。

作成したクエリリストウィジェットにクエリを追加できます。詳しくは

ダッシュボードのクエリリストウィジェットへのクエリの追加

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。log_insight-host は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

クエリリストウィジェットを使うと、1つ以上の保存されたクエリにダッシュボードからすばやくアクセスできます。カスタムのクエリリストウィジェットを変更して、新しいクエリを追加できます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、クエリリストウィジェットに追加したいクエリを実行します。
2. **Search** ボタンの横にあるドロップダウンメニューから、**Add Current Query to Dashboard** を選択します。
3. **Dashboard** ドロップダウンメニューから、クエリリストウィジェットを含むダッシュボードを選択します。
4. **Widget Type** ドロップダウンメニューから、**Query List** を選択します。
5. **Query List** ドロップダウンメニューから、クエリを追加するウィジェットの名前を選択し、**Save** をクリックします。
6. **Add** をクリックします。HPE OneView for vRealize Log Insight は、選択したウィジェットにクエリを追加します。

コンテンツパックの詳細

Content Packs カテゴリには、インポートしたダッシュボードセット、抽出したフィールド、クエリ、およびアラートが含まれます。VMware - vSphere コンテンツパックは、デフォルトでインポートされます。

注記:

コンテンツパックのダッシュボードは読み取り専用です。削除または名前の変更はできません。ただし、カスタムダッシュボードにコンテンツパックのダッシュボードのクローンを作成することはできません。ダッシュボード全体または個々のウィジェットのクローンを作成できます。

カスタムコンテンツ

Custom Content カテゴリには、ダッシュボード、抽出したフィールド、および HPE OneView for vRealize Log Insight の現在のインスタンスで作成したクエリが含まれます。My Content セクションには、現在ログインしているユーザーのカスタムコンテンツが含まれます。Shared Content セクションには、HPE OneView for vRealize Log Insight のすべてのユーザー間で共有されるコンテンツが含まれます。管理者ユーザーだけがほかのユーザーとコンテンツを共有できます。管理者ユーザーだけが共有コンテンツを管理できます。

注記:

Custom Content セクションからコンテンツをアンインストールすることはできません。保存した情報を Custom Content セクションから削除する場合は、ダッシュボード、クエリ、アラート、フィールドなどの個々の要素を削除する必要があります。

コンテンツパックのエクスポート

始める前に

- Internet Explorer 9 を使用する場合は、Adobe Flash Player がシステムにインストールされていることを確認します。
- HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

カスタムダッシュボード、保存したクエリ、アラート、および抽出したフィールドをコンテンツパックとしてエクスポートして、HPE OneView for vRealize Log Insight インスタンスの間で、またはコミュニティの HPE OneView for vRealize Log Insight ユーザーと、コンテンツを共有することができます。コンテンツパックは、vRealize Log Insight Content Pack (VLCP) ファイルとして保存されます。エクスポートするクエリ、グラフ、およびアラートで使用されているフィールドはすべて、エクスポートされるコンテンツパックに含まれます。

す。一時フィールドが含まれるコンテンツをエクスポートする場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、エクスポート時にコンテンツパック内にこれらのフィールドを作成します。

手順

1. 右上のドロップダウンメニューから、**Content Packs** を選択します。
2. エクスポートするコンテンツパックをクリックし、コンテンツパックの名前の横にあるドロップダウンメニューから **Export** を選択します。
3. (オプション) コンテンツパックに含めたい内容を選択します。

エクスポートのために選択したダッシュボード、クエリ、またはアラートで使用されているフィールドの選択を解除することはできません。

4. 右側のテキストフィールドに、コンテンツパックのメタデータを入力します。

このデータが表示されるのは、Install as content pack オプションを使用してコンテンツパックをインポートする場合だけです。コンテンツパックをカスタムコンテンツとしてインポートする場合は、この情報を表示できません。

オプション	説明
Name	この名前は、HPE OneView for vRealize Log Insight インスタンスにパックをインポートするときに表示されます。Name コンテンツパックのファイル名は、 Name テキストボックスから取られます。推奨される形式は、「ベンダー-製品」(VMware - vSphere など) です。
Version	このコンテンツパックをアップグレードする予定の場合は、バージョンを入力します。Content Packs リストにすでに存在するコンテンツパックをインストールしようとする、HPE OneView for vRealize Log Insight にバージョンが表示されます。
Namespace	ネームスペースは、コンテンツパックの一意の識別子です。逆引き DNS 命名方法を使用します (例: com.companyname.contentpackname)。
Author	オプションで、自分の名前または会社名を入力できます。
Website	オプションで、コンテンツパックに関連付けられている Web サイトのリンクを指定できます。コンテンツパックを表示できるユーザーにはすべて、Web サイトのリンクも表示されます。

表は続く

オプション	説明
Description	オプションで、パックの内容と目的に関する情報を記述できます。
Icon	<p>オプションで、コンテンツパック名の横に表示されるアイコンをブラウズできます。</p> <hr/> <p>注記:</p> <p>アイコンのファイルフォーマットはPNG または JPG にする必要があり、144×144 ピクセルのサイズに調整されます。</p> <hr/>

5. **Export** をクリックし、ファイルを保存する場所を指定して、**Save** をクリックします。エクスポートした VLCP ファイルは、選択した場所にダウンロードされます。

コンテンツパックのインポート

始める前に

- Internet Explorer 9 を使用する場合は、Adobe Flash Player がシステムにインストールされていることを確認します。
- HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

コンテンツパックをインポートして、ユーザー定義の情報と HPE OneView for vRealize Log Insight のほかのインスタンスを交換したり、古いコンテンツパックをそれ以降のバージョンにアップグレードしたりできます。インポートできるのは、vRealize Log Insight Content Pack (VLCP) ファイルだけです。

注記:

- 既存のコンテンツパックの新しいバージョンをインポートするときに、変更したフィールド定義がその新しいバージョンに含まれている場合は、変更したフィールドを使用するクエリ、アラート、およびグラフはすべてアップデートされて、新しい定義が反映されます。現在のコンテンツパックバージョンに存在するフィールドがインポートする新しいバージョンに見当たらない場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、削除したフィールドを使用する各クエリ、グラフ、またはアラートのフィールドの一時コピーを作成します。
- Imported Alerts はデフォルトで無効になっています。

手順

1. 右上のドロップダウンメニューから、**Content Packs** を選択します。
2. 左下隅で、**Import Content Pack** をクリックします。
3. 管理者ユーザーの場合は、インポート方法を選択します。

管理者以外のユーザーは、自分のユーザースペースにのみコンテンツパックをインポートできます。

オプション	説明
<p>Install as content pack</p>	<p>内容は読み取り専用のコンテンツパックとしてインポートされ、HPE OneView for vRealize Log Insight インスタンスのすべてのユーザーに表示されます。</p> <hr/> <p>注記:</p> <p>コンテンツパックのダッシュボードは読み取り専用です。削除または名前の変更はできません。ただし、カスタムダッシュボードにコンテンツパックのダッシュボードのクローンを作成することはできます。ダッシュボード全体または個々のウィジェットのクローンを作成できます。</p>
<p>Import into My Content</p>	<p>内容はカスタムコンテンツとしてユーザースペースにインポートされ、自分だけに表示されます。インポートした内容は、クローンを作成しなくても編集できます。</p> <hr/> <p>注記:</p> <p>このモードでは、名前、作成者、アイコンなどのコンテンツパックのメタデータは表示されません。</p> <hr/> <p>コンテンツパックは、My Content にインポートされると、パックとしてアンインストールすることはできません。My Content からコンテンツパックを削除する場合は、ダッシュボード、クエリ、アラート、フィールドなどの各要素を個別に削除する必要があります。</p>

4. インポートするコンテンツパックをブラウズし、**Open** をクリックします。
5. インポートをクリックします。カスタムコンテンツとしてインポートするためのオプションを選択した場合は、インポートする内容を選択するダイアログボックスが表示されます。
6. (オプション) カスタムコンテンツとしてインポートすることを選択した場合は、チェックボックスを使用してインポートする項目を選択し、再度 **Import** をクリックします。インポートした内容は、左側の Content Packs または Custom Content リストに表示されます。

インポートしたクエリ、グラフ、およびアラートで使用されているフィールドもインポートされます。

コンテンツパックの要素の詳細の表示

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

ダッシュボードを構築するクエリ、またはフィールド、クエリ、およびアラートの定義は、Content Packs ビューから直接開くことができます。コンテンツパックの要素の定義をカスタム定義のテンプレートとして使用することもできます。

手順

1. 右上のドロップダウンメニューから、**Content Packs** を選択します。
2. 確認したい要素を含むコンテンツパックを選択します。
3. コンテンツパックの要素はタイプ別にグループ分けされるため、要素のタイプに対応するボタンをクリックします。たとえば、コンテンツパックに含まれるすべてのアラートを表示するには、Alerts をクリックします。
4. 要素のリストで、確認したい要素の名前をクリックします。Interactive Analytics ページが開き、選択した要素に対応するクエリが表示されます。コンテンツパックの要素のクエリまたは定義を変更してカスタムコンテンツに保存できます。

HPE OneView for vRealize Log Insight のアラートクエリ

スケジュール設定した間隔で特定のクエリを実行するように HPE OneView for vRealize Log Insight を構成することができます。クエリと一致するイベントの数が設定したしきい値を超えた場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、メール通知を送信して vCenter Operations Manager で通知イベントをトリガーできます。使用可能なアラートのリストを表示するには、Interactive Analytics ページに移動し、Search ボタンの横にあるドロップダウンメニューから Manage Alerts を選択します。アラート名の下に各アラートのステータスが表示されます。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

HPE OneView for vRealize Log Insight で作成できるアラートのタイプ

いずれかのアラートタイプを選択して、アラートクエリを実行する間隔、および HPE OneView for vRealize Log Insight がアラート通知を送信する条件を制御できます。

アラートタイプ	説明
Alert for Any Match	アラートクエリは 5 分間隔で自動的に実行されます。直近の 5 分以内に少なくとも 1 つのイベントがクエリと一致すると、通知がトリガーされます。
Alert Based on Number of Events Within a Custom Period of Time	アラートクエリの間隔は、設定によって異なります。X より多いまたは少ない数の一致イベントが直近の Y 分間に発生すると、設定に応じて通知がトリガーされます。 このタイプのアラートがトリガーされると、そのアラート期間中はそのアラートが繰り返され、同じイベントセットでのアラートの生成の重複を防止します。アラートの繰り返しの期間中にそのアラートを有効にしたい場合は、そのアラートを無効にしてから再度有効にできます。
Alert Based on Chart Values	指定した期間内に、グラフ内の少なくとも 1 つのバーが設定したしきい値を上回るか下回るかした場合は、アラートクエリによって通知がトリガーされます。このアラートタイプは、時間の経過に伴ってイベントの数が視覚化されないグラフで設定できます。

コンテンツパックのアラート

コンテンツパックには、アラートクエリを含めることができます。デフォルトで HPE OneView for vRealize Log Insight に含まれる vSphere コンテンツパックには、事前に定義されたアラートクエリがいくつか含まれ

まず、ESXi ホストが syslog データの送信を停止した場合、HPE OneView for vRealize Log Insight が vRealize Server からイベント、タスク、およびアラームのデータを収集できなくなった場合、またはアラームステータスが赤色に変化した場合、それらのアラートクエリはアラートをトリガーできます。これらのアラートクエリをテンプレートとして使用して、環境に固有のアラートを作成できます。コンテンツパックのアラートはすべて、デフォルトで無効になっています。

vCenter Server: ESX/ESXi stopped logging アラートを有効にするのは良い方法です。特定のバージョンの ESXi ホストでは、HPE OneView for vRealize Log Insight を再起動すると syslog データの送信が停止されることがあるためです。このアラートは、vCenter Server イベントの `esx.problem.vmsyslogd.remote.failure` を監視して、syslog フィードの送信を停止した ESXi ホストがあるかどうかを検出します。syslog の問題と解決策については、[VMware ESXi 5.x host stops sending syslogs to remote server \(2003127\)](#) を参照してください。

`vc_remote_host (VMware - vSphere) contains log- insight-hostname` の制約をアラートクエリに追加して新規アラートとして保存して、HPE OneView for vRealize Log Insight のインスタンスへのフィードの送信を停止する ESXi ホストだけを検出できます。コンテンツパックのアラートクエリは読み取り専用です。コンテンツパックのアラートの変更を保存するには、アラートをカスタムコンテンツに保存する必要があります。

メール通知を送信するアラートクエリを HPE OneView for vRealize Log Insight に追加する

始める前に

- HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想プライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。
- 管理者がメール通知を有効にするように SMTP を構成していることを確認します。HPE OneView for VMware vRealize Log Insight 管理者ガイドのトピックを参照してください。

特定のデータがログに出現したときにメール通知を送信するように、HPE OneView for vRealize Log Insight でアラートクエリを構成することができます。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、通知を送信するクエリを実行します。
2. Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Add Alert for Current Query...** を選択します。
3. **Add Alert** ダイアログボックスで、アラートの名前を入力し、アラートをトリガーするイベントの簡潔でわかりやすい説明を記述します。アラートの名前と説明は、HPE OneView for vRealize Log Insight が送信するメールに含められます。
4. **Email** チェックボックスを選択し、HPE OneView for vRealize Log Insight で通知を送信するメールアドレスを入力します。アドレスが複数の場合は、アドレスとアドレスをカンマで区切ります。
5. アラートのしきい値を設定します。グラフのプレビューのオレンジ色の線は、現在のしきい値を示します。

アラートタイプ	選択
Any Match	on any match オプションを選択します。クエリは 5 分間隔で実行されます。
Based on the number of events within a period of time	2 番目のオプションを選択し、ドロップダウンメニューを使用してパラメーターを設定します。2 番目のドロップダウンメニューの選択内容に基づいて、クエリが実行されます。
Based on chart values	3 番目のラジオボタンを選択し、ドロップダウンメニューを使用してパラメーターを構成します。 注記: このアラートタイプは、少なくとも 1 つのフィールドに基づいてイベントをグループ分けする場合にのみ使用できます。このアラートタイプは、時系列だけを視覚化するグラフでは作成できません。 2 番目のドロップダウンメニューの選択内容に基づいて、クエリが実行されます。

6. **Save** をクリックします。

保存したアラートは有効または無効にするか、削除することができます。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

通知イベントを vCenter Operations Manager に送信するアラートクエリを HPE OneView for vRealize Log Insight に追加する

始める前に

- HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。
- 管理者が HPE OneView for vRealize Log Insight と vCenter Operations Manager の間の接続を構成してアラートの統合を有効にしていることを確認します。詳しくは、*HPE OneView for vRealize Log Insight 管理者ガイド*を参照してください。

特定の HPE OneView for vRealize Log Insight クエリから指定したしきい値を超える結果を返すときに、vCenter Operations Manager に通知イベントを送信するアラートクエリを HPE OneView for vRealize Log Insight で構成することができます。HPE OneView for vRealize Log Insight が生成する通知イベントは、vCenter Operations Manager 内のリソースに関連付けられます。リソースについて詳しくは、vCenter Operations Manager Getting Started Guide (Custom UI)を参照してください。

注記:

通知イベントが vCenter Operations Manager ユーザーインターフェイスに表示されるまでには数分かかります。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、通知を送信するクエリを実行します。
2. **Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Add Alert for Current Query...**を選択します。
3. Add Alert ダイアログボックスで、アラートの名前を入力し、アラートをトリガーするイベントの簡潔でわかりやすい説明を記述します。アラートの名前と説明は、HPE OneView for vRealize Log Insight が送信する通知イベントに含まれます。
4. Email チェックボックスを選択解除するか、通知イベントを受信する少なくとも1つのメールアドレスを指定します。アドレスが複数の場合は、アドレスとアドレスをカンマで区切ります。
5. Send to vCenter Operations Manager を選択します。
6. **Select** をクリックし、HPE OneView for vRealize Log Insight が送信する通知イベントに関連付けられる vCenter Operations Manager リソースを選択します。
7. Select vCenter Operations Manager Resource to Receive Alert ダイアログボックスで、リソース名を入力するか、リストのオブジェクトをブラウズします。ドロップダウンメニューを使用して、電源状態に基づいてリソースをフィルター処理できます。

オプション	説明
Active VMs	これを選択すると、電源が入っているリソースだけが表示されます。
All Resources	これを選択すると、電源状態に関係なくすべてのリソースが表示されます。

8. **Criticality** ドロップダウンメニューで、vCenter Operations Manager Custom ユーザーインターフェイスに表示される通知イベントの重大度レベルを選択します。
9. アラートのしきい値を設定します。グラフのプレビューのオレンジ色の線は、現在のしきい値を示します。

アラートタイプ	選択
Any Match	on any match オプションを選択します。クエリは5分間隔で実行されます。
Based on number of events within a period of time	2番目のオプションを選択し、ドロップダウンメニューを使用してパラメーターを設定します。2番目のドロップダウンメニューの選択内容に基づいて、クエリが実行されます。
Based on chart values	3番目のラジオボタンを選択し、ドロップダウンメニューを使用してパラメーターを構成します。 注記: このアラートタイプは、少なくとも1つのフィールドに基づいてイベントをグループ分けする場合にのみ使用できます。このアラートタイプは、時系列だけを視覚化するグラフでは作成できません。 2番目のドロップダウンメニューの選択内容に基づいて、クエリが実行されます。

10. **Save** をクリックします。

アラートクエリがアラート条件に一致する結果を返すと、通知イベントが vCenter Operations Manager に送信されます。アラートクエリは事前に定義されたスケジュールに基づいて実行され、指定したスキームの時間範囲で 1 回だけトリガーされます。通知イベントが表示される場所は、使用する vCenter Operations Manager ユーザーインターフェイスによって異なります。

例：vCenter Operations Manager への通知アラートを構成する

vCenter Operations Manager で、*vm-abc* という名前の仮想マシンリソースがあるものとします。HPE OneView for vRealize Log Insight は、仮想マシン *vm-abc* が動作する vCenter Server システムからイベントをプルするように構成されています。*vm-abc* 仮想マシンの電源を切断するたびに vCenter Operations Manager で通知を受信する必要があるとします。

その通知イベントを vCenter Operations Manager に送信するように HPE OneView for vRealize Log Insight を構成する方法を次に示します。

手順

1. 検索テキストボックスに、「*Power Off virtual machine*」と入力します。
2. **Add a Constraint** をクリックし、**vc_vm_name** を選択して、*vm-abc* を入力します。
3. **Search** をクリックします。選択した時間範囲内に *vm-abc* 仮想マシンの電源が切断された場合は、発生したすべてのインスタンスが返されます。
4. **Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Add Alert** を選択します。
5. Add Alert ダイアログボックスで、アラートの名前と説明を入力し、**Email** チェックボックスを選択解除して、**Send to vCenter Operations Manager** を選択します。
6. **Select** をクリックして、*vm-abc* を入力し、**Search** をクリックして、リストで *vm-abc* リソースを検索します。
7. リストの *vm-abc* リソースをクリックして追加します。
8. (オプション) vCenter Operations Manager Custom ユーザーインターフェイスに表示される重大度レベルを変更します。
9. Raise an alert の下で、on any match を選択します。
10. **Save** をクリックします。

HPE OneView for vRealize Log Insight は、5 分間隔で vCenter Server システムをポーリングします。クエリが VM の *vm-abc* から新しい仮想マシン電源切断タスクを返す場合、HPE OneView for vRealize Log Insight は、vCenter Operations Manager で *vm-abc* リソースに関連付けられている通知イベントを送信します。

保存したアラートは有効または無効にするか、削除することができます。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

既存のアラートクエリの表示

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

作成したアラートクエリを表示して、それらのクエリの通知が有効になっているかどうかをチェックすることができます。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Manage Alert** を選択します。すべてのアラートクエリのリストが表示されます。アラート通知のステータスが、アラートの名前の下に表示されます。
リストのアラートクエリをクリックすると、それらのパラメーターを変更したり、不要になったクエリを削除したりできます。コンテンツパックのアラートクエリは読み取り専用です。コンテンツパックのアラートの変更を保存するには、アラートをカスタムコンテンツに保存する必要があります。

アラートクエリの変更

始める前に

- HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。
- 管理者がメール通知を有効にするように SMTP を構成していることを確認します。詳しくは、*HPE OneView for vRealize Log Insight 管理者ガイド* を参照してください。
- 管理者が HPE OneView for vRealize Log Insight と vCenter Operations Manager の間の接続を構成してアラートの統合を有効にしていることを確認します。*HPE OneView for vRealize Log Insight 管理者ガイド* を参照してください。

保存したアラートクエリのトリガーを変更したり、クエリが送信する通知を有効または無効にしたりできます。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

コンテンツパックのアラートクエリは読み取り専用です。コンテンツパックのアラートの変更を保存するには、アラートをカスタムコンテンツに保存する必要があります。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Manage Alerts** を選択します。
3. Alerts リストで、変更したいアラートクエリをクリックし、必要に応じてクエリのパラメーターを変更します。
両方の通知オプションをクリアした場合、アラートクエリは無効になります。
4. 変更を保存します。

オプション	説明
Save	自分のアラートを変更すると、このボタンが表示されます。
Save to My Alerts	共有アラートまたはコンテンツパックのアラートを変更すると、このボタンが表示されます。元のアラートは変更されないまま残りますが、アラートのコピーをカスタムコンテンツに保存します。

アラートクエリの有効化

始める前に

- HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。 `log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。
- 管理者がメール通知を有効にするように SMTP を構成していることを確認します。詳しくは、*HPE OneView for vRealize Log Insight 管理者ガイド*を参照してください。
- 管理者が HPE OneView for vRealize Log Insight と vCenter Operations Manager の間の接続を構成してアラートの統合を有効にしていることを確認します。詳しくは、*HPE OneView for vRealize Log Insight 管理者ガイド*を参照してください。

アラートクエリが無効になっていると、HPE OneView for vRealize Log Insight は通知メールを送信せず、vCenter Operations Manager の通知イベントもトリガーしません。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

アラートクエリは、以下の条件下では無効になります。

- Edit Alert ダイアログボックスで両方の通知オプションを無効にした場合。
- アラートがコンテンツパックの一部である場合。

コンテンツパックのアラートクエリは読み取り専用です。コンテンツパックのアラートの変更を保存するには、アラートをカスタムコンテンツに保存する必要があります。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. **Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Manage Alerts** を選択します。
3. Alerts リストで、有効にする必要のあるアラートのクエリをクリックします。
4. 有効にする通知オプションを選択し、必要なパラメーターを指定します。

オプション	説明
Email	テキストボックスに少なくとも 1 つのメールアドレスを入力します。アドレスが複数の場合は、アドレスとアドレスをカンマで区切ります。
Send to vCenter Operations Manager	通知イベントに関連付ける vCenter Operations Manager リソースを選択し、イベントの重大度レベルを選択します。

5. 変更を保存します。

オプション	説明
Save	自分のアラートを変更すると、このボタンが表示されます。
Save to My Alerts	共有アラートまたはコンテンツパックのアラートを変更すると、このボタンが表示されます。元のアラートは変更されないまま残りますが、アラートのコピーをカスタムコンテンツに保存します。

アラートクエリがアラート生成条件に一致する結果を返すと、HPE OneView for vRealize Log Insight は構成内容に応じて通知を送信します。

例 : VMware - vSphere コンテンツパックのアラートを有効にする

VMware - vSphere コンテンツパックには、**vCenter Server: ESX/ESXi stopped logging** アラートなど、事前に定義されたアラートクエリがいくつか含まれています。

vCenter Server: ESX/ESXi stopped logging アラートを有効にするのは良い方法です。特定のバージョンの ESXi ホストでは、HPE OneView for vRealize Log Insight を再起動すると syslog データの送信が停止されることがあるためです。このアラートは、vCenter Server イベントの `esx.problem.vmsyslogd.remote.failure` を監視して、syslog フィードの送信を停止した ESXi ホストがあるかどうかを検出します。

手順

1. **Interactive Analytics** タブで、**Search** ボタンの右側にあるドロップダウンメニューを展開して、**Manage Alerts** を選択します。
2. VMware - vSphere Content Pack の下で、**vCenter Server: ESX/ESXi stopped logging** をクリックします。
3. メール通知イベントまたは vCenter Operations Manager 通知イベントを有効にします。
4. **Save to My Alerts** をクリックします。

HPE OneView for vRealize Log Insight のインスタンスへのフィードの送信を停止する ESXi ホストだけを検出するには、`vc_remote_host (VMware - vSphere) contains <log-insight-hostname>` の制約をアラートクエリに追加して、新しいクエリをアラートに保存します。

syslog の問題と解決策について詳しくは、[VMware ESXi 5.0 host stops sending syslogs to remote server \(2003127\)](#) を参照してください。

アラートクエリの削除

始める前に

HPE OneView for vRealize Log Insight Web ユーザーインターフェイスにログインしていることを確認します。URL フォーマットは `https://log_insight-host` です。`log_insight-host` は、HPE OneView for vRealize Log Insight 仮想アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名です。

不要になったアラートクエリは削除できます。

注記:

アラートクエリはユーザー固有です。管理できるのは自分のアラートだけです。

手順

1. **Interactive Analytics** タブに移動します。
2. Search ボタンの右側にあるドロップダウンメニューから、**Manage Alerts** を選択します。
3. 削除するアラートの名前を選択し、**Delete** をクリックします。
4. Delete Alert ダイアログボックスで、**Delete** を選択します。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイト (<http://www.hpe.com/assistance>) にアクセスします。
- ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイト (<http://www.hpe.com/support/hpesc>) にアクセスします。

ご用意いただく情報

- テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- オペレーティングシステム名およびバージョン
- ファームウェアバージョン
- エラーメッセージ
- 製品固有のレポートおよびログ
- アドオン製品またはコンポーネント
- 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- 一部のソフトウェア製品は、製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするメカニズムを備えています。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨される更新方法を確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかに移動します。
 - Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの「メールニュース配信登録」ページ：<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>
 - Software Depot の Web サイト：<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>
- お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページ (<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>) にアクセスします。

❗ 重要:

一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品の権利付与情報が必要になる場合があります。関連する権利付与情報を使って HP パスポートをセットアップしておく必要があります。

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	http://www.hpe.com/support/hpesc

表は続く

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Worldwide の連絡先	http://www.hpe.com/assistance
サブスクリプションサービス/サポートのアラート	http://www.hpe.com/support/e-updates-ja
Software Depot	http://www.hpe.com/support/softwaredepot
カスタマーセルフリペア	http://www.hpe.com/support/selfrepair
Insight Remote Support	http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs
Serviceguard Solutions for HP-UX	http://www.hpe.com/info/hpux-serviceguard-docs
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) ストレージ互換性マトリックス	http://www.hpe.com/storage/spock
ストレージのホワイトペーパーおよび分析レポート	http://www.hpe.com/storage/whitepapers

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

デバイスサポートについて詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。